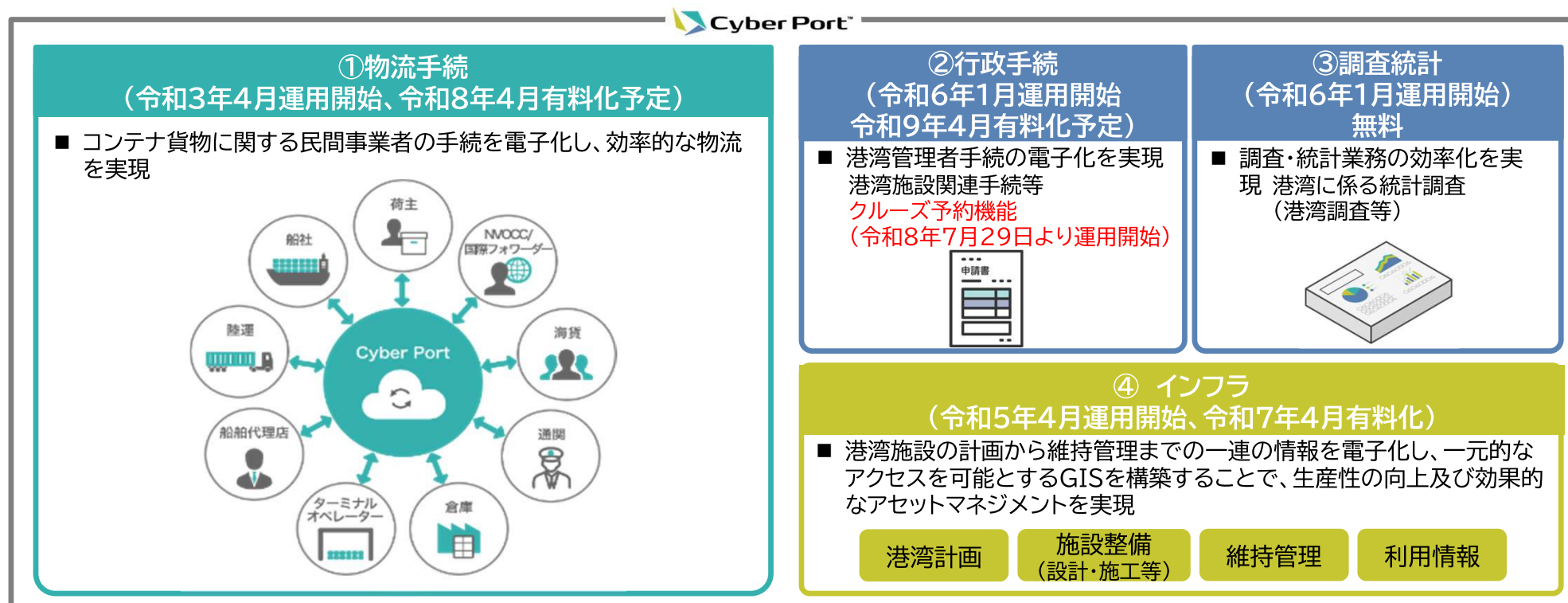
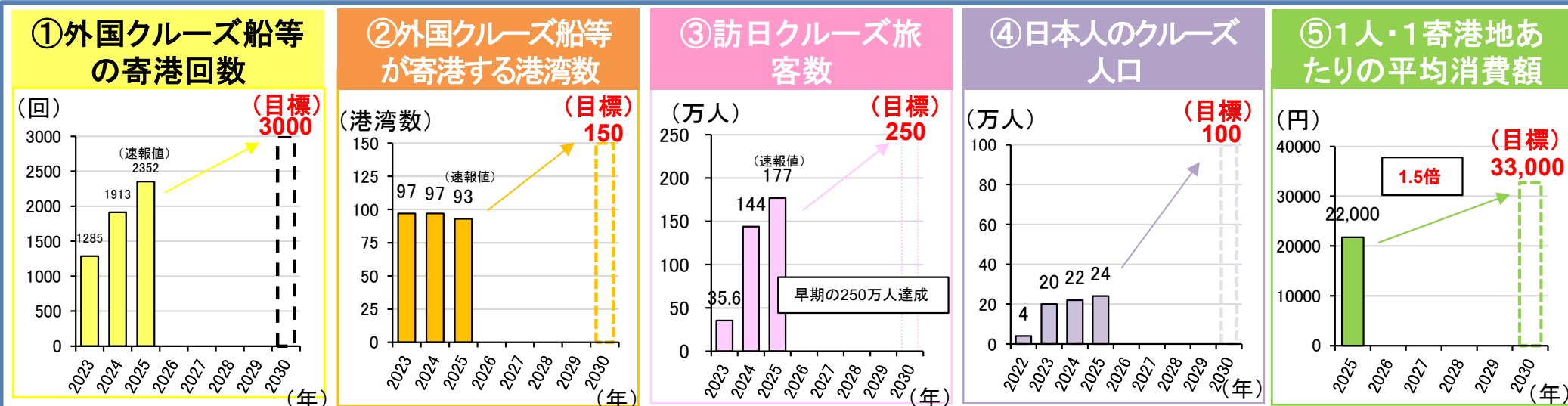


- サイバーポートとは、港湾全体の生産性向上に向けた取組みを推進するために、国土交通省が保有・運用し、港湾物流や行政手続等の港湾関連手続、港湾施設の計画から維持管理までの一連の情報等を電子化するデータプラットフォームである。
- これまでのシステム開発により、主な機能として以下の4つがある。
 - ① 物流手続: 民間事業者間の港湾物流手続の電子化
 - ② 行政手続: 港湾管理者の行政手続等を電子化
 - ③ 調査統計: 港湾調査・統計業務の電子化
 - ④ インフラ: 港湾の計画から維持管理までのインフラ情報の電子化



- 2025年のクルーズ船寄港回数は、前年比約1.3倍の3,117回(うち外国クルーズ船2,352回、日本クルーズ船765回)となった。(速報値)
- 「2030年訪日外国人旅行者数6,000万人・消費額15兆円」という政府目標のなか、クルーズにおいても、寄港地における旅客の混雑緩和や地方誘客に向けた受入環境整備がボトルネックとなるため、課題解消に向けた取組を行っていく。

観光立国推進基本計画(令和8年3月27日閣議決定)で設定した5つの目標値



クルーズの最近の動向

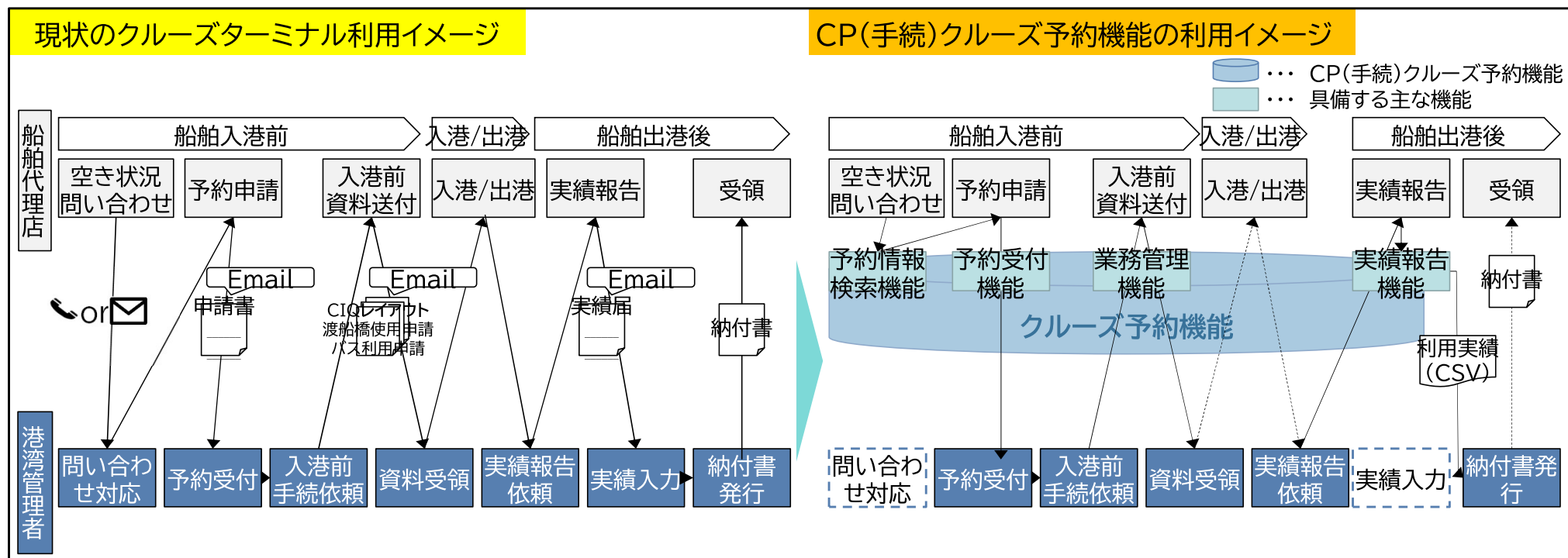
日本船社等によるクルーズ事業の拡大

- 商船三井クルーズは、「シーボーン・ソジャーン」を追加購入し2026年後半より就航開始するほか、新造客船が2027年に第1船、2028年以降に第2船が就航予定
- 郵船クルーズは、新造客船「飛鳥Ⅲ」が2025年7月に就航開始
- オリエンタルランドは、日本を拠点とするクルーズ事業に参入すると発表し、2028年度に就航予定
- 両備ホールディングスは、日本で初となるヨットスタイルの客船を2027年に竣工予定

外国船社による日本への新規配船

- プリンセス・クルーズ社が新たに2027年からサファイア・プリンセスの日本配船を開始
- ザ・リッツ・カールトン・ヨット・コレクションは、2025年12月から2026年に新造船「ルミナール」(46,750トン、乗客定員452人)を、日本を含むアジア太平洋各地に配船

- 船舶代理店が港湾管理者とスムーズに予約調整できる環境を構築し、クルーズ振興につなげるため、サイバーポート(手続)に中長期のクルーズ着岸バースの予約調整に係る機能の構築を行う。



■クルーズ寄港数増加に伴う今後想定される課題

- 港湾管理者は、
 - ・ターミナル空き状況に係る問い合わせ対応の負担増
 - ・人為的ミスによるダブルブッキング・予約情報の誤入力の増
 - ・キャンセルなどの予約管理業務の負担増
- 船舶代理店は、
 - ・複数の予約申請の入力負担増加
 - ・複数港湾の予約管理による負担増加
 - ・悪天候など、緊急時の空きターミナルの照会に係る負担増

クルーズ予約機能により実現すること

- | | |
|--------------|----------|
| 問い合わせ業務の削減 | 申請方法の標準化 |
| 人為的ミス・誤入力の削減 | 予約機会の向上 |
| 予約管理工数の削減 | 入力項目の削減 |

船社から頂戴したコメント

- ダブルブッキングの管理ができる点は、これからますます船舶が増え、岸壁の利用も増えてくる中で機会損失の解消につながる。

機能名	サイバーポート(手続) クルーズ予約機能
対象手続	全国のクルーズ着岸バースの予約 (※入出港関連手続は従前通りNACCSで実施)
対象者	①申請者: 船舶代理店 ②管理者: 港湾管理者(指定管理者含む)
主な機能	✓ 予約受付機能 ✓ 重複予約検知機能 ✓ 入港前手続き機能 ✓ 実績報告機能 ✓ NACCS連携機能(令和8年度以降開発) ✓ 予約情報検索(公開)機能(令和8年度以降開発)
利用方法	ブラウザ(GUI)利用
稼働	令和8年7月29日(水)運用開始
対象港湾	全ての港湾(任意)
利用可能な港湾 (令和8年7月29日時点)	広島港、青森港 ※順次拡大予定
利用料金	船舶代理店: 無料 港湾管理者: 令和9年度より有料化※ ※クルーズ予約機能を含むサイバーポート(手続)の全機能をご利用いただけます。